

- ・①～⑬の疾病は、登園許可証明書(医師が記入)が必要になりますので、必ずお持ちになってから登園されますよう、お願い致します。
- ・⑭～⑳の疾病は、登園届（保護者が記入）の提出をお願い致します。

★感染症の登園めやす

登園許可証明書を提出下さい	病名	潜伏期間	感染可能期間	主な症状	登園基準
	① 第一種感染症 急性灰白髄膜炎（ポリオ）	4～35日 （平均15日）	発症期間中	無症状又は風邪の症状、重症化すると解熱後下半身麻痺や球麻痺を合併して嚥下障害、発語障害、呼吸障害	治癒するまで
	② 第三種感染症 細菌性赤痢	1～3日	未治療の場合1ヵ月～3ヵ月間、薬服用の場合は3日間	発熱、腹痛、下痢、血便、嘔吐、軽度な下痢や無症状の場合もある	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	③ 麻疹 （はしか）	8～12日	発疹出現1～2日前から発疹出現後4日間	発熱、咳、結膜炎と発疹	解熱後3日経過するまで
	④ 風疹 （三日はしか）	14～23日	発疹出現の前後7日間	軽い風邪の症状、種々の発疹と熱、リンパ腺腫大	発疹が消失するまで
	⑤ 水痘 （水ぼうそう）	10～20日	発疹が出現する2日～すべての発疹が痂皮化するまで	発疹は体幹から全身に、頭髪部や口腔内にも出現する。紅斑から丘疹、水泡、痂皮の順に変化	すべての発疹が痂皮化するまで
	⑥ 帯状疱疹	不定	全ての発疹が痂皮化するまで	小水泡が神経の支配領域にそった形で片側性に現れる。	すべての発疹が痂皮化するまで
	⑦ 流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	12～25日	耳下腺腫脹前7日から腫脹後9日まで唾液から検出	発熱、片側ないし両側の唾液腺の疼痛性腫脹	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	⑧ 結核	2年以内	喀痰の塗抹検査が陽性の間	発熱、咳、呼吸困難、チアノーゼなど	医師により感染の恐れがないと認められるまで（喀痰検査が3回連続陰性になるまで）
	⑨ ※咽頭結膜熱 （プール熱）	2～14日	発熱、充血等症状が出現した数日間	39℃前後の発熱、咽頭炎、頭痛、食欲不振、結膜充血、眼脂	主症状（発熱、咽頭発赤、目の充血）が消失してから2日を経過するまで
	⑩ 流行性角結膜炎 （はやり目）	2～14日	発症後約2週間	流涙、結膜充血、眼脂、耳前リンパ節の腫脹と圧痛	医師により感染の恐れがないと認められるまで（結膜炎の症状が消失してから）
	⑪ 百日咳	5～12日	感染後3週間	感冒症状から始まり、次第に咳が強くなり咳発作へ。熱がない	特有の咳が消滅するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	⑫ 腸管出血性大腸菌感染症	1～8日	便中に菌が排出されている間	激しい腹痛、頻回の水様便、血便、発熱は軽度	医師により伝染の恐れがないと認められるまで
	⑬ 急性出血性結膜炎	1～3日	ウイルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される	急性結膜炎で結膜出血が特徴	医師により感染の恐れがないと認められるまで
登園届を提出下さい	⑭ 髄膜炎菌性髄膜炎	1～14日	不明	頭痛、発熱、首が動かしにくくなる硬直	医師により感染の恐れがないと認められるまで
	⑮ A群溶連菌感染症	2～5日	潜伏期間後半～発症後約7日間 抗菌内服薬後24時間経過するまで	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌、頸部リンパ節炎、全身に掻痒感のある発疹	抗生剤内服開始後24時間以上経過し、発熱、発疹等の諸症状が回復するまで
	⑯ マイコプラズマ肺炎	2～3週間	症状発現時がピークで、その後4～6週間続く	咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。	発熱や激しい咳が治まっていること
	⑰ 手足口病	3～6日	唾液へのウイルスの排泄は1週間、便への排泄は発症から数週間	水泡性の発疹が口腔粘膜及び四肢末端（手掌、足底、足背）に現れる。発熱は軽度。	発熱や口腔内の水泡・潰瘍の影響がなく、普段の食事が摂れること（解熱後1日以上経過していること）
	⑱ 伝染性紅斑 （りんご病）	4～21日	風邪症状発現から顔に発疹が出現するまで	軽い風邪症状を示した後、頬が赤くなったり手足に網目状の紅斑が出現する。	発疹期には感染力がない為、全身状態の良いこと
	⑲ ※感染性胃腸炎	ノロ:12時間～48時間後 ロタ:1～3日	症状がある間と、症状消失後1週間	発熱、下痢、嘔吐	嘔吐、下痢症状が治まり、普段の食事ができること 解熱後24時間以上経過していること
	⑳ 単純ヘルペス感染症	2日～2週間	水疱が形成されている間	歯肉口内炎、口周辺の水疱	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること（歯肉口内炎のみであればマスク着用で登園可能）
	㉑ ヘルパンギーナ	3～6日	唾液からは1週間 便からは数週間	突然の高熱、咽頭痛、口蓋垂付近に水泡疹	全身状態が安定しており、普段の食事が摂れること（解熱後24時間以上経過していること）
	㉒ RSウイルス感染症	4～6日	3～8日（乳児は3～4週間）	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、呼吸困難	呼吸器症状が消失し、全身状態がよくなるまで
	㉓ ウイルス性肝炎（A型）	15～50日 （平均28日）	発症1～2週間前が最も排泄量が多い	急激な発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐、黄疸	肝機能が正常であること
	㉔ 突発性発疹	約10日	発熱の間	38℃以上の高熱が3～4日続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発疹が出現	解熱後24時間以上経過し、全身状態が良いこと
	㉕ 伝染性膿痂疹 （とびひ）	2～10日	効果的治療開始後24時間まで	湿疹や虫刺され痕を掻きこわし、そこへ細菌感染しびらんや水泡病変を形成すること。	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること
	㉖ 伝染性軟属腫 （水いぼ）	2～7週間 時に6ヶ月	不明	直径1～3mmの半球状の丘疹	掻きこわし傷から滲出液が出ているときは被覆すること
	㉗ 頭じらみ	10日～14日 （成虫まで2週間）	産卵から最初の若虫が孵化するまでの10～14日の期間	頭皮のかゆみ・白い卵と成虫がみられる。	駆除を開始していること
	㉘ ヒトメタニューモウイルス感染症	3～5日	発症1～2週間前が最も排泄量が多い	咳、ゼイゼイ呼吸、鼻水、発熱	咳などが安定した後、全身状態がよい者
	㉙ 疥癬	約1ヶ月	感染してから皮疹、かゆみが出現するまでの期間	かゆみの強い発疹、膿疱、結節ができる。手足には線状の隆起した皮疹も見られる。	治療開始後
	㉚ B型肝炎	急性肝炎では45～160日	不明	全身の倦怠感、発熱・頭痛、吐き気、食欲不振、下痢、黄疸などで、尿が褐色になることがある。	急性肝炎の極期を過ぎてから
	㉛ インフルエンザ	1～2日	発症前24時間から発病後3日程度までが最も感染力が強い	発熱、咳、全身倦怠、筋肉痛、咽頭痛	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
	㉜ 新型コロナウイルス感染症	約5日間	発症2日前から発症後7～10日間	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過すること ※無症状の場合は検体採取日を0日目として、5日を経過すること

※アデノウイルス感染症と診断され、三大症状の発熱・咽頭痛・結膜炎すべての症状がある場合は、⑧に該当します。
三大症状が揃わない場合は、⑱として登園届の提出をお願い致します。